

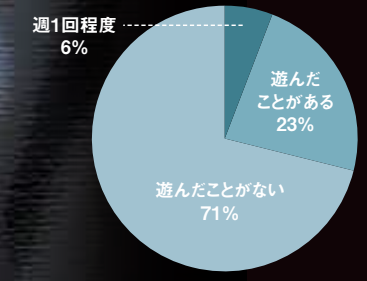
資料提供：バック・エックス

2017アミューズメントサミット参加学生のパチンコ業界に対する意識調査

特別レポート
2月、19年
卒採用シーズン
がスタート

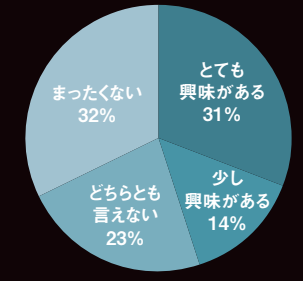
ここ最近、大手ホール企業を中心に、パチンコ・パチスロ未経験学生の採用が増えている。業界大手のマルハンや人材紹介企業のバック・エックスなどの話を元に、未経験者が増えている理由は何かを考えていきたい。

パチンコ・スロットの
遊技経験・頻度



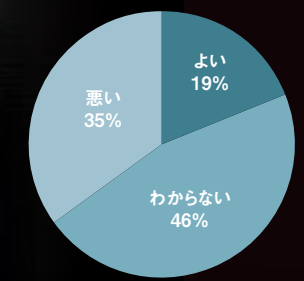
来場した学生のうち約7割は、「パチンコ・パチスロを遊んだことがない」と答えている。未経験者にとっても、パチンコ業界は説明会を聞きに来る価値があるということなのだろうか。

アミューズメント業界で
働くことへの興味



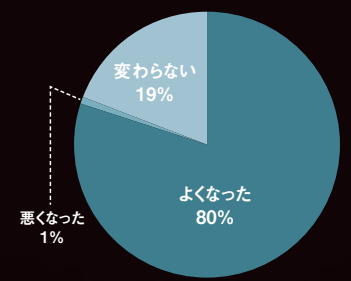
学生が業界を絞っているのかどうかを探ることができるアンケート。45%の学生が「パチンコ業界に興味がある」と回答。それ以外は合同説明会の段階では、まだ業界を絞っていない。

イベントに参加する前の
「パチンコ」に対するイメージ



イベント前のパチンコ業界に対するイメージはあまり良くはない。一般企業も含めて就職先を検討できる段階では、こうなってしまうのも無理はない。漠然とパチンコ業界は良く思われていない。

イベント参加後の「パチンコ」に
対するイメージの変化



イベント参加後のイメージの変化では、「よくなった」が80%あり、劇的にイメージは改善できている。実際に話をし、熱意を伝えることで、学生からのイメージを変えることができるのだ。

パチンコ未経験新

卒、が業界をつくる

学生に飯を食わせる？
優秀な学生の争奪戦

経団連が企業の採用活動ルールを大きく変更したのは、2015年11月20日のこと。学生が学業に専念できるよう、面接などの解禁時期を遅らせたのである。

2019年卒に関しては、企業は3月1日から広報活動が解禁。選考活動開始は6月1日からと規定されているが、3月からすでにエントリーシートやウェブテストなどが始まっており、完全に形骸化。一般的に内々定が出るピークは5月といわれ、「なん

のためのルールなのか」と批判的な意見は多い。

それでも背に腹は変えられないのが企業の採用担当だ。人材サービス会社のビズリーチは、「ニクリーチ」というランチ付きのスカウトサービスを開始。人事が学生のプロフィールを見てランチに誘うという異例のスタイルだ。128社の企業と5万1519人の学生が活用している。

また別の事例では、ユナイテッド・コレクティブ社が主催する新体感型セミナーの「就活応援0円酒場」なるものもある。同社が運営する鶏料理居酒屋「て

けてけ」に学生を招き、お酒や料理を無料で味わいながら社員と学生が懇談を行う。月に4回ほど毎回の会社説明会に、30人から40人の学生が参加し、そのうち7割が選考を進めるという。

超がつくほどの売り手市場といわれている昨今、人手不足の企業は優秀な学生を一人でも多く採用しようと争奪戦を繰り広げているのである。

パチンコに対するイメージは
漠然としたものに過ぎない

パチンコ業界もご多分に漏れ

ず人手不足である。企業が発展・成長する上で人材確保は優先度の高い課題項目だが、20代人口は右肩下がりでも下落。遊技参加人口もまた下落しておりパチンコとの接点は減少しつつあるといえよう。そのためか、パチンコ未経験であるにも関わらず入社を希望する学生の割合が高まっていると考えられる。

バック・エックスが主催する合同企業説明会の「アミューズメントサミット」に参加した学生にアンケートをとったところ、7割以上は遊技経験が一切ないと答えたのである。「パチン

コ」ではなく「アミューズメント」と銘打っているため、パチンコ・パチスロ未経験者が多く会場に足を運ぶのは理解できる。また、アミューズメント業界で働くことへの興味に関しては、45%の学生が「興味あり」。「どちらともいえない」が23%。「まったくない」が32%となっている。

約5割の学生はアミューズメント業界への就職を前向きに検討しているが、残りは否定的か決めあぐねている状態であることが分かる。ただし、好材料もある。イベント参加前にはパチン

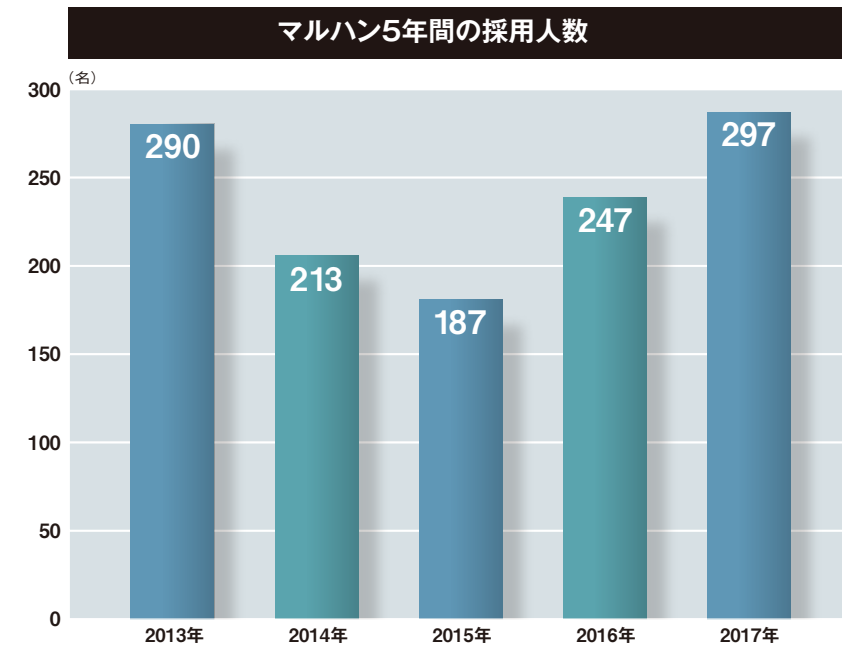
コに対するイメージが「よい」と答えた人は全体のわずか19%であったのに対し、イベント参加後にそのイメージがどのように変わったかを聞いたところ「よくなった」と答えた学生は80%もいたのである。多くの学生がパチンコ業界についてよく分からないまま、否定的な感情を抱いているのである。しかし、しっかり説明できれば、それも覆せるというわけだ。すなわち学生から見たパチンコは、「不人気業界」なのではなく「不認知業界」といえるのではないだろうか。

業界ナンバーワン企業の採用活動 マルハンに聞く、パチンコ

昨年（2017年卒）の採用予定250名に対して、実際に入社したのは297名だったマルハン。1万人以上のエントリー数で学生からもっとも注目されているパチンコ企業かもしれない。そんなマルハンの話を中心に、未経験新卒採用の現状についてまとめていく。



株式会社マルハン
人材開発部 採用育成担当
寺岡 賢作氏



ドリームチャレンジャーなら 遊技経験は必須要素ではない

「昨年、採用した学生の約4割が未経験入社でした」と答えるのはマルハン人材開発部採用育成担当の寺岡賢作氏だ。寺岡氏もパチンコ・パチスロの遊技経験が一切ないまま、マルハンの扉を叩いた学生の一人だ。

近年マルハンでは遊技未経験新卒採用の割合は微増。寺岡氏が採用を担当するようになった6年前で、当時の未経験者の割合は3割ほど。そこから大きく上下

することはないが、緩やかに未経験者の割合は増え続けているという。一方で、エントリー数は徐々に減少しており、ここ数年で多い年は1万5000人ほどだったのに対し、昨年は1万人程度にとどまった。

マルハンの求める人物像は、夢に情熱を燃やし続ける挑戦者を意味する「ドリームチャレンジャー」である。積極性、情熱性、ハンタリー精神、環境に左右されずに自分自身を貫ける姿勢を求めており、その採用基準に照らし合わせると、社会人と

して遊技経験は必須要素とは限らなくなってくる。また、パチンコ業界で働くにあたって「遊技経験の有無がハンデになることはない」と寺岡氏は言う。

この業界不況といわれている中で、遊技未経験学生によるパチンコ業界への志望増加にはどんな理由が考えられるのだろうか。

「まず一ついえるのは、遊技人口の減少に伴ってパチンコ・パチスロを遊技しない学生が増えていることですね。遊技人口減少の内訳を見ると、若年層

未経験新卒ってどうなの？

2017年度 新入社員内訳

	男性	女性
大学院卒	3名	0名
大学卒	226名	45名
短期大学卒	1名	2名
専門学校卒	11名	6名
高卒	2名	1名
合計	243名	54名

2017年度のマルハンの入社人数の内訳。男性243名に対して女性は54名となり女性採用比率は約18%。ちなみに同じく全国企業のダイナムでは、男性59名に対して女性26名であり女性採用比率は約30%であった。

の減少傾向が著しい。そうした動きの中で、未経験者の割合が増えているということなのだと思います」（寺岡氏）

地元志向の強い学生には 二つの社員区分が魅力的

世間一般と同じく、マルハンでも3月1日から採用サイトをオープンすることになる。それと同時に合同企業説明会への出展や企業説明会を開始。また開幕

前にはインターンシップにおいて戦国時代をモチーフにした3泊4日の宿泊型インターンシップ「DISCOVER」と、女性向けの就職支援セミナーなどを行う「マリス・イン・ワンダーランド」などを通じて学生とコミュニケーションを図ってきた。マルハンの採用コストは一人当たり70万円から80万円ほど。年間2億円以上のコストをかけて採用を行っている。「2017年卒マイナビ企業新卒内定状況調査」に

よると、2016年度（2017年卒）の入社予定者一人あたりの採用費の平均は46.1万円となっており、これに比べるとやや割高だ。しかし、「業界内の相場を考えれば健闘できている方だと考えています」と学生を集めにくいパチンコ業界の現状を踏まえて寺岡氏は答えた。

また、マルハンほどの規模になると、学生の引っ張り合いのライバルとなるのは、パチンコ業界内とは限らない。

「そうですね、業界内ではダイナムさまのような全国規模の企業よりも、どちらかというところでは地方強豪企業とバッティングしている感覚です。なぜなら、弊社のような全国に店舗を持つ企業だと、どうしても全国転勤をするイメージがあります。それに対し、勤務地が限定されている企業さまは地元志向が強い方

マルハンのインターンシップ事例



事例 1

夏に3泊4日の宿泊型インターンシップを行う「DISCOVER」は、エントリー数が6000名ほどと大盛況な模様。当然、インターンシップへの参加はその後の選考に有利となる。



事例 2

マルハンで行っている女性向けのアミューズメント型インターンシップ「マリス・イン・ワンダーランド」も人気だ。人事のプロが女性向けの就活セミナーや企業説明などを行う。

にとっては魅力的だと思えます。ただ、弊社も社員区分を全国社員と地域限定社員と二つ選べるようになってきているので、例えば勤務地を関東圏に絞るなどすることができるようになりました。こうした働き方改革で勤務地の面で負けることは少なくなってきたと思っています」(寺岡氏)

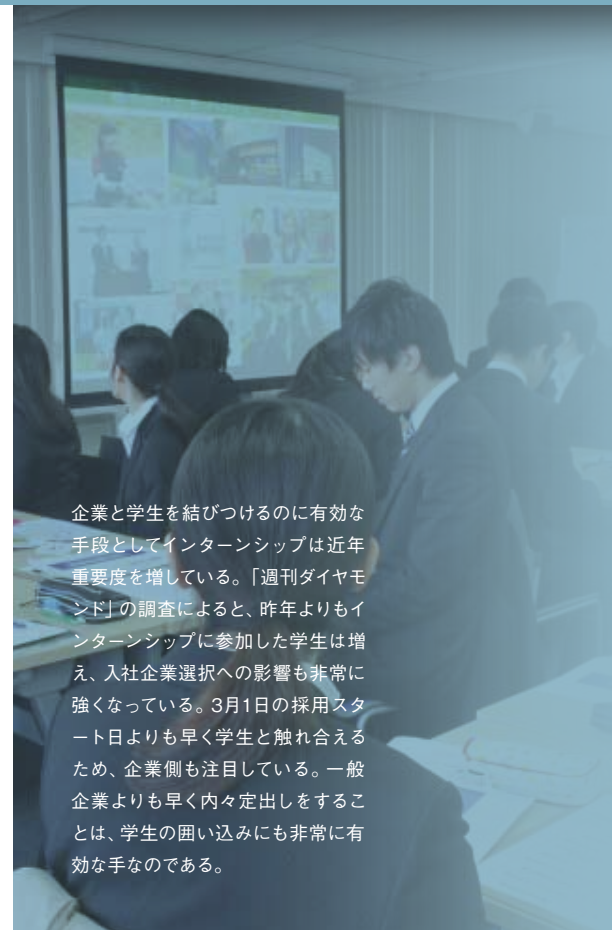
マルハンの新卒社員は、全国転勤ありの「グローバル社員」か、勤務地を限定できる「ブロック社員」に分けられる。そのうちの3割5分ほどがブロック社員を選択しているという。

「地元志向が強い学生さんが増えてきた印象です。特に女性はブロック社員を選択する割合が高い」(寺岡氏)

地元から近い場所や自分が親しんできたコミュニティーの中で活躍したいと考えている最近の若者と書くと、内向的な人物像をイメージしてしまいがちですが、実際多くの学生は祖父母や将来的な両親の介護などを懸念している人が多いのだという。

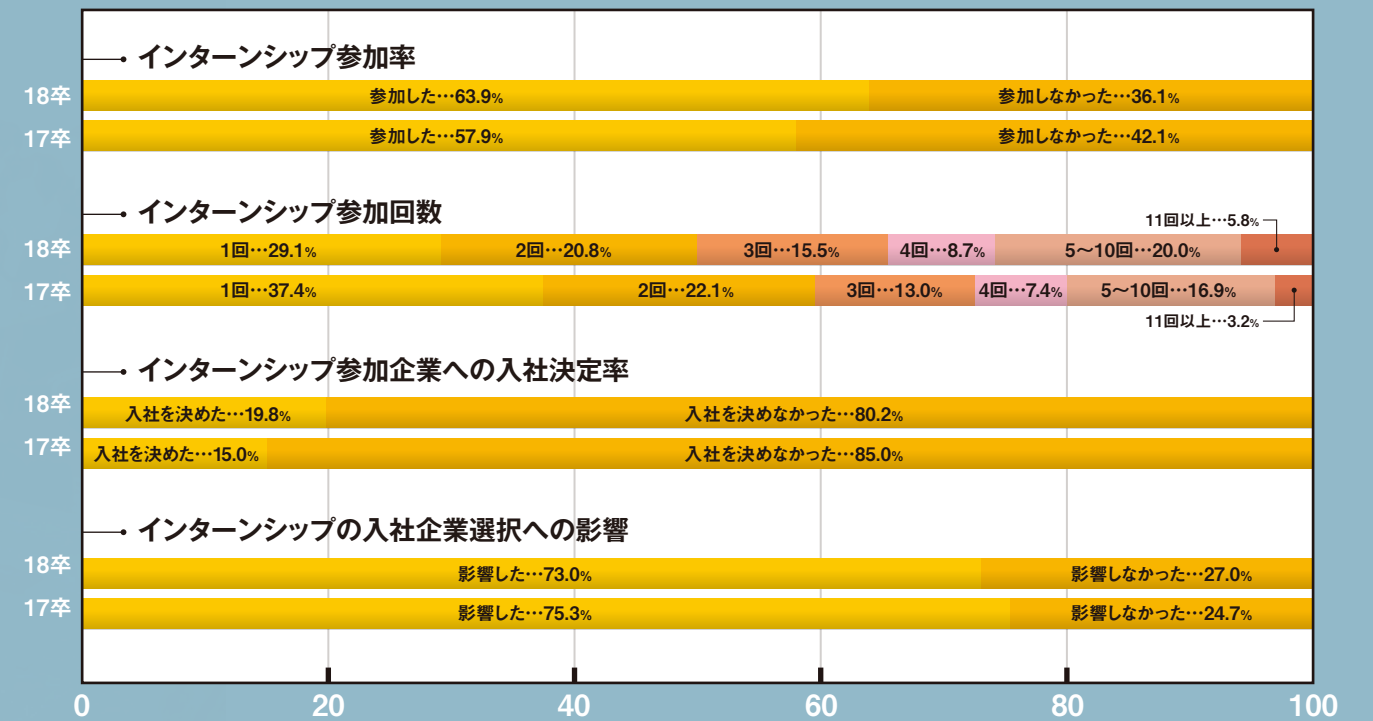
ここ数年は300名近い採用を行ってきたマルハンだが、今後はやや採用数を絞る予定だ。

「もちろん新卒採用の幹部候補生は多いに越したことはないですが、今後は人員をたくさん取るというよりも、これからのマルハンをつくっていくにあたって人数を絞りながら、一人ひとりのポテンシャルや中身の質をもっと高めていきたいと考えております」(寺岡氏)



企業と学生を結びつけるのに有効な手段としてインターンシップは近年重要度を増している。「週刊ダイヤモンド」の調査によると、昨年よりもインターンシップに参加した学生は増え、入社企業選択への影響も非常に強くなっている。3月1日の採用スタート日より早く学生と触れ合わせるため、企業側も注目している。一般企業よりも早く内々定出しをすることは、学生の囲い込みにも非常に有効な手なのである。

学生のインターンシップに関する意識 (資料:2017年9月9日発行「週刊ダイヤモンド」)



大手ナビサイトのみに頼った`待ち採用、だけでは難しい。採用チャネルを増やし、多様化する就活生の動きに合わせていくことが大切です。



株式会社バック・エックス
営業部 統括マネージャー

中村 祐希

(なかむら・ゆうき) 営業会社を経て2015年バック・エックスに中途入社。パチンコホール企業の新卒採用コンサルを主に従事、毎年1000名以上の学生へ就活セミナーも行う。

転職市場から見た
遊技未経験新卒が増えたワケ

一方、転職求人サービスを行うバック・エックスの中村祐希氏にも遊技未経験学生が増えている要因について意見をうかがった。

「若者の遊技人口離れが起こった一方、就活生の数は変わっていません。ノンユーザーの比率が増えただけです。さらに付け加えるのであれば、労働環境の改善などで正しく認識してもらえれば業界に対する興味や、会社に対して興味をもってくれるようになるはずです」

あくまで相対的であるが、学生側はパチンコ業界の門戸を叩きやすくなった。その状況に

対して、ホール企業の採用マインドはどのようになっているのだろうか。

「最近では採用単価が上がって学生を取りにくい状況が続いています。ただ、新卒採用を縮小する企業はあってもやめる企業は少ないです。新卒採用は単なる人員の獲得だけでなく、採用活動をしていく中、入社したあとの待遇改善、先輩社員のOJTなど、企業の組織活性化のメリットの色合いが強い。だから、縮小はしても継続するという企業が多いのです」(中村氏)

遊技経験がないからこそ
見えるものもある

また新卒採用支援を行う企業

だからこそ分かる現在の新卒採用市場のトレンド、オススの採用手法についても聞いてみた。

「特にオススメしたいのは、大手ナビサイトのみに依存するのではなく、採用チャネルを多様化することです。例えば、合同企業説明会での直接的な接触を増やすこと。最近インターンシップに取り組む企業さんが増えてきているのは、そういった面もあると思います。また、業界にとって悪いニュースばかりが取り沙汰される最近の流れは、学生からみてもイメージはよくありません。ただ、多くの学生はパチンコホールの何に対して悪いイメージを持っているのかというと、ちゃんと答えを

持っている学生は少ないです。それは、若者の遊技離れが起きているためです。そもそもパチンコホールに入ったことすらない学生が多い。ナビサイトに企業情報を露出するだけの、`待ち採用、は難しいんです。直接学生と話し、この業界のことをただしく認識してもらい人や社風に興味を持ってもらう。そんなフローが新卒採用において重要となってきます」(中村氏)

今年の4月に入社する遊技経験がない新卒社員の人は、今後の業界を支えていく宝なので、大切に育てていくことが必須だ。遊技経験はゼロでも、彼らにはパチンコ・パチスロにどっぷり浸かったヘビーユーザーには見えないものが見えている。